

しゃらく互助倶楽部

おかげさまで創業20年

生活支援だより

Vol.27

2025年5月

こんにちは、生活支援が充実した神戸の安全・安心の身元保証サービス、しゃらく互助倶楽部です。

しゃらく互助倶楽部で提供したサービスを皆さまにお届けします。将来的な問題に備えて皆様の参考になれば幸いです。

活動記

どんなサービスを望みますか？ 独居老人1000万人 孤立防ぐ



私は毎朝犬の散歩に行き、コーヒーを飲みながら日本経済新聞を読むことが日課です。関心のある記事はじっくり読み、関心が低い記事は見出しだけで読んだ気分になる。そんな読み方です。

今朝（5月7日）の新聞に「長寿社会に挑む」という記事がありました。要約すると、東京の医師が開発した50歳以上限定のマッチングアプリについて記載されていました。参加者の半分は未婚、その他は死別や離婚された方だという。開発のきっかけは、孤立を防ぐには楽しさが大事で、恋愛に着目したとのこと。マッチングアプリだけでなく、実際の婚活パーティもあるそうです。「いい年して恥ずかしい」という見方は既にひと昔前のものとのこと。また、高齢者と20歳前後の若者が同じアパートに住み、高齢者が家賃8万円、若者が家賃4.5万円の代わりに、高齢者と交流することが条件の賃貸物件があるとのこと。確かに超高齢化社会になってくる中で、様々なサービスが生まれてくることは分かりますが、本当に単身高齢者の方が望むサービスなのかと疑問に感じるところがあります。

確かに、人である以上は何らかの人との繋がりが必要で、何らかの「縁社会」の中にいる必要があると思います。家族や親族などの血縁社会、地域との繋がりの地縁社会、仕事からみの繋がりである職縁社会、趣味の繋がりである趣縁社会など、様々な縁社会があります。年を重ねると、職縁社会との関係は薄れていきますし、そもそも地域社会との繋がりが希薄化している昨今、地縁社会はほとんど存在しないに等しい。血縁社会との繋がりが強い方と弱い方が非常に明白に分かれています。趣縁社会との繋がりが生命線なのかなと思いながら記事を読み、しゃらく互助倶楽部の会員様でも高齢者大学などの趣縁社会に参加している会員様は、生き生きしていると思います。でもそれも、体が動き移動ができることが前提なのかなと思います。

私どもが守り支援すべきしゃらく互助倶楽部の会員様は、孤独・孤立を避けるためにどんなサービスがあったらいいと思われるのでしょうか。そんなことを考えると、答えが出ません。であれば、このしゃらく互助倶楽部の読者や会員様に直接お伺いしたく思います。

皆様は、孤立を防ぐために、どんな縁社会が欲しいですか？どんなサービスをNPO法人しゃらくから提供してほしいと思いますか？ぜひ、手紙などでご意見を頂ければ幸いです。

月	火	水	木	金	土・日
	1 支援(安否確認訪問)	2 支援(退院支援)	3	4 支援(退院支援・転院支援付添)	5・6
7 支援(受診付添) 支援(外出付添) 報告会	8 互助契約 支援(銀行付添) 報告会	9 支援(銀行付添・清掃等)	10 報告会	11 報告会 旅リハ	12・13
14 報告会 介護タクシー	15 支援(お性根抜き付添、廃棄搬出) 緊急支援(入院手続き)、報告会	16 介護タクシー	17 報告会 介護タクシー	18 支援(入院お見舞い様子伺い) 支援(様子伺い)	19・20
21 支援(外出付添・衣替え)	22 支援(家事支援・買物付添) 支援(葬送支援についてご確認)	23 支援(書類整理の補助)振込について)	24 介護タクシー(施設入居契約に同行) 支援(振込付添同行)	25 医療上の意思表示書作成 支援(受診付添・銀行付添) 介護タクシー	26・27
28	29	30 支援(銀行振込付添)			

警察沙汰

誰もがなりたくない認知症。65歳以上の有病率は12.3%で、軽度認知障害を含めると15.5%とされています。75歳以上になると19%、80歳以上は30%、90歳以上になると40%に達するというデータがあります。

誰もが認知症にはなりたくないと思いますし、予防をしていても進行を完全に止めることは難しいと思います。しゃらく互助倶楽部の会員様も認知症が進んだ方がおられます。家の金庫がなくなったとのことで警察に電話をされ、私どもに何度か警察からお電話を頂きました。それ以外にも色々…。私どもが駆けつけると、笑顔で何もなかったような素敵な笑顔を見せてくれます。

認知症が進むと、判断能力の低下や倫理的思考の欠如など、常識的にやってはいけないことをやってしまうことがあります。私たちができることは、認知症の方々に対し理解と共感を持ち、彼らの尊厳を守りながら支援することです。しゃらく互助倶楽部では、会員様が安心して過ごせる環境を提供し、手探りながらも支援を続けていければと思います。

今月のご相談

「猫のことが心配」

猫と生活されている方からご連絡をいただきました。ご自身のことよりも、もしも自分に何かがあった場合に猫の世話を誰がしてくれるのかという心配でご連絡をいただきました。しっかりと遺言書を書いて、飼っている猫が困らないようにしたいという希望でした。

私も2022年11月に猫6匹を引き取りました。飼い主が戻らぬ家で小さなゲージに入れた親猫2匹と子猫4匹。放置すると飢え死にする可能性もあったので、いてもたってもいられず保護した経緯があります（その後犬1匹追加）。ですので、気持ちは分かりますし、会員様の飼い猫でしたら何が何でもしっかり保護しますし、何なら我が家で飼うことも検討します。会員様の猫でなくても、命なので粗末にはできません。



（小倉が保護した猫）

話を戻しますが、遺言書にしっかり保護していただける方を指定することが大事ですよとお伝えしました。しかし、その遺言を本当にしっかり履行してくれるのか、誰がしてくれるのかと細かな所まで気にされていました。私どもとしては、公正証書遺言を書いておくことが最も大事ですよとお伝えしました。

スタッフの日日是好日 紅提灯桜

この時期になると、山からの贈り物（蕨、つわなど）山菜のごちそうを頂く事に感謝して食事を楽しんでいます。

ふるさとは遠きにありて思うもの・・・思いを馳せながら煮しめを作り、紅提灯桜を一
枝・・・

幾つになっても、田舎が恋しく思える、贅沢な時間を過ごしておりました。

季節の食材を料理して、少しのお酒で胃袋も心もいっぱいになり、

「みなさまの穏やかな日常を祈願しつつ・・・明日も頑張ろう！！」と、これからも笑顔をたやすことなく励みます。

引き続きどうぞ宜しくお願いいたします。

By 小薮



しゃらく互助倶楽部の会員様で、施設に入居を希望されている方がおられます。その方は週に2回程度デイサービスに通われており、デイサービスを楽しみ、生きがいにされています。

いくつかの施設と一緒に訪問し、とある有料老人ホームのお部屋から見える景色、食事、アクセスを非常に気に入られ、入居を前向きに検討されるようになりました。しかし、そこには落とし穴がありました。

有料老人ホームの特定施設入居者生活介護というものがあり、特定施設に入居している要介護者を対象として行われる日常生活上の世話、機能訓練、療養上の世話を提供します。それは施設内で全て完結するサービスであるため、外部の介護サービスとの併用はできません。よって、会員様が気に入った有料老人ホームに入居するということは、通っていたデイサービスに行くことをあきらめなければならないのです。これは会員様にとって大きな落とし穴でした。

もし、今のデイサービスに通い続けることを優先する場合は、住宅型有料老人ホームへの入居を考える必要があります。会員様も結果的にデイサービスを優先され、今も自宅で生活しながら別の老人ホームを探すお手伝いをしております。

ややこしいぞ！大阪万博（2025年日本国際博覧会）

NPO法人しゃらくは、しゃらく互助倶楽部以外に、しゃらく旅倶楽部という介護付添旅行サービスも提供しております。日本では、1970年に大阪万博、1975年には沖縄海洋博、1985年につくば万博、1990年に花博、2005年には愛・地球博と開催されてきました。2025年の大阪・関西万博も大変な人気で、私どもにも多くの添乗のご依頼を頂いています。

しかし、正直にややこしいです。まず、車いす利用者などが利用する駐車場がほぼ埋まっている。既にほとんど手配ができなくなっています。また、万博内では現金が使えません。現金決済以外の方法がない方もかなり多くおられます。何よりも一番困るのは…食事です。予約できる飲食店、予約可能日の夜中の0時からアプリで予約しても、一瞬で埋まってしまう手配が難しい。予約せずに行けば、かなりの時間を待たされる…。

健康な方ならまだしも、高齢者や何らかの配慮が必要な方への配慮がないというのが、私の認識です。まだ私たちにもノウハウができていないのもありますが、なかなかハードルが高いのが現状です。皆様は行きたいですか！大阪・関西万博、私たちも成功事例を積み重ねてしっかりアテンドできるように尽力します。

